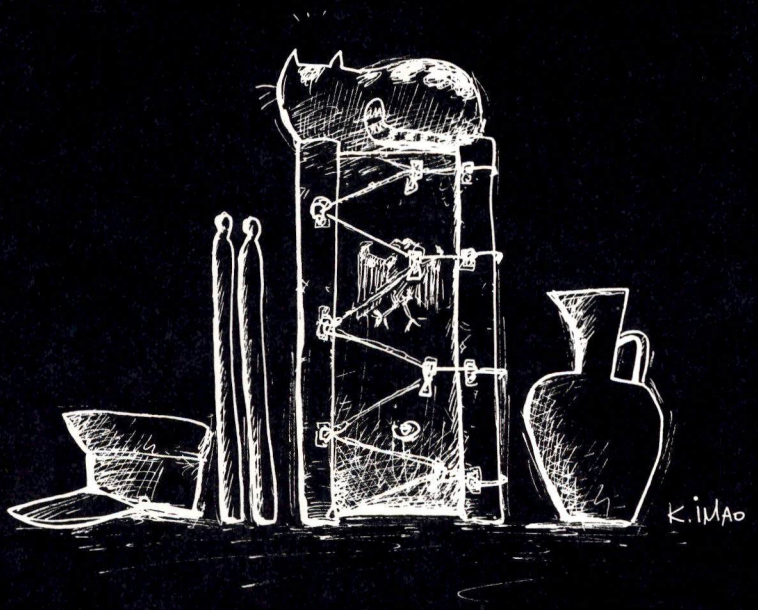
アマチュアオーケストラ

新交響楽団第134回演奏会

The New Symphony Orchestra The 134th Concert

指揮：フランシス・トラヴィス

ソプラノ独唱：橋爪 ゆか



Francis TRAVIS, Conductor HASHIZUME Yuka, Soprano

ベートーヴェン：「献堂式」序曲

Ludwig van BEETHOVEN: "Die Weihe des Hauses" Overture op.124

ベルク：歌劇「ヴォツェック」より3つの断章

Alban BERG: Drei Bruchstücke aus "WOZZECK" op.7

シューベルト：交響曲第9(8)番ハ長調

Franz SCHUBERT: Symphony No.9(8) "The Great" C-major op. posth.

1992 1.19 (日) 2:00pm.

Sun. January 19,1992, 2:00p.m. Shinjuku-bunka-center

新宿文化センター

アマチュアオーケストラ

新交響楽団第134回演奏会

ベートーヴェン：「献堂式」序曲

Ludwig van BEETHOVEN：“Die Weihe des Hauses” Overture op. 124

ベルク：歌劇「ヴォツェック」より３つの断章

Alban BERG：Drei Bruchstücke aus “WOZZECK” op. 7

Ⅰ．第１幕第２および第３場
Ⅱ．第３幕第１場
Ⅲ．第３幕第４および第５場

――――― 休　憩 ―――――

シューベルト：交響曲第９(８)番 ハ長調《グレート》

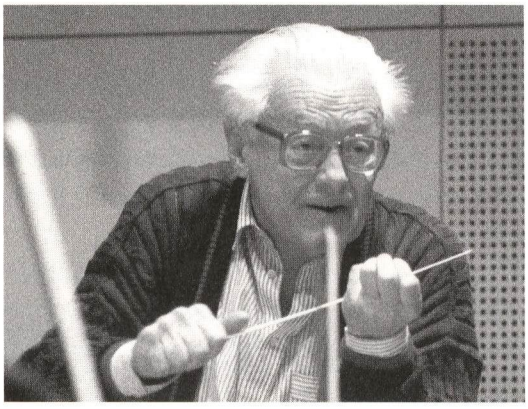
Franz SCHUBERT：Symphony No. 9(8)“The Great” C-major op. posth

第１楽章：Andante – Allegro ma non troppo
第２楽章：Andante con moto
第３楽章：Scherzo(Allegro vivace)
第４楽章：Allegro vivace

1992年１月19日(日)2:00 p.m.

新宿文化センター

主催：新交響楽団



指揮

フランシス･トラヴィス

1921年米国デトロイト生まれ(69年スイスに帰化)。48年よりヘルマン・シェルヒェンに指揮法を学ぶ。その後チューリッヒ大学で音楽学を勉強し、博士号を得る。以後、指揮者として、ドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、スカンディナヴィア３国を中心に国際的な活動を始める。

ベルリン芸術週間、ルツェルン音楽祭をはじめとするヨーロッパ各地の音楽祭にも数多く参加して好評を博する。レパートリーは極めて広く、中でも現代音楽の解釈には定評がある。スイスの国際現代音楽協会の会長もつとめた。現存までに作品初演は1000を超える。

バーゼルのオペラ劇場の常任指揮者をつとめた後、22年間、フライブルクの音楽大学の教授として、オーケストラ指揮者の育成に尽力した。

90年から東京芸大の指揮科客員教授として来日、芸大での教育および指揮活動のほかに、ヨーロッパにおいても客演指揮を行っている。90年９月にはロンドンで開催された第１回コヴェントガーデン国際音楽祭に招かれ、世界的ソプラノ歌手ヒルデガルト・ベーレンスとの共演で、ベートーヴェン、ウェーバー、ワーグナーの作品を指揮した。新響とは1991年４月にスクリャービンの交響曲第２番他で共演、好評を博している。



ソプラノ

橋爪 ゆか

東京芸大声楽科卒。現在同大学院オペラ科２年に在籍している。原田茂生、和田みのり両氏に師事。芸大卒業演奏会をはじめNHK FM新人リサイタル、読売新人演奏会に出演。90年秋には芸大オーケストラ定期（指揮：フランシス・トラヴィス）でヴェルディ「レクイエム」のソリストとして出演、また91年６月には東京オペラ・プロデュース第38回定期公演「ドン・ジョヴァンニ」のドンナ・アンナ役として、また同年９月の芸大定期オペラでは「魔笛」で３人の侍女役として出演した。

ルートヴィヒ･ヴァン･ベートーヴェン

「献堂式」序曲

作曲年代：1822年
初　　演：1822年10月３日
楽器編成：フルート２、オーボエ２、クラリネット２、ファゴット２、ホルン４、トランペット２、トロンボーン３、ティンパニ、弦５部

十年後の不滅の恋人

1822年10月３日、ヴィーンのヨーゼフシュテッタ

ー・テアターの新装が相成り、そしてその日は皇帝ヨーゼフ２世のバースデイ・イヴにもあたり、柿落しの興行はさぞかし華やかなものだったのだろうな、と思う。

祝祭劇は「アテネの廃墟（作品113）」の大部分が使用されたのだけれども、一部の合唱曲と、そして音楽の女神ミネルヴァが登場する（らしい）ことから劇場のリオープニングを敷衍しての序曲「献堂式」*が新しく作曲されたとのこと。

急な依頼、僅か２カ月足らずの月日ではとても劇音楽全部の作曲など無理な話で、またもしかすると依頼主が「アテネの廃墟」を知っていてすすめたのかもしれないけれども、ベートーヴェンはきっと10年前を思い出して――素晴しい春から夏にかけて「交響曲第７番」「第８番」や「アテネの廃墟」を作り、そして愛情が破局を迎えた1812年を。――

1812年７月６日・朝、「私の天使、私のすべて、私の私自身」。テレーゼ。不滅の恋人。ベートーヴェンが自分自身と「あなた」のために生きなければならなかった。――７月６日・月曜日・夜、「――しかし、決して私には隠し立てをしないで下さい――。」７月７日・よき朝、「何故離れて行かなければならないのですか――忠実な心を見誤らないで下さい。」……胸が苦しくて、痛くて辛い程の、その心を便箋に書き綴った日々。

いつも心の中に大切にしまい込んでいた、黒い瞳で少し栗色のふわっとした髪の（或いは碧眼で金髪の？）不滅の恋人。

すべてが終ってしまって、苦悩の淵を彷徨したその後の年月を、いったいどんな想いで見つめ直したのかな。

時代は、ナポレオンの戦争、ヴィーン会議、メッテルニヒによる「文化」の危機へと、ベートーヴェンは炎症性カタルのつかの間の回復、そして――第９交響曲、対位法の城郭である最後のミサ（ソレムニス・作品123）。

こんな荒れ狂う波濤の中で、ハ長調・力強く誇らしげな主和音、ベートーヴェン自身が「素晴しい作曲家、まだまだ学ぶべき点がある」と評価していたヘンデルが完成させた対位法、激しく、そして輝きに満ちた大きなフーガ。

それはそれは素晴しいけれども、でも不滅の恋人（かも知れない）の後姿が見える経過句、アレグロ・コン・ブリオの直前の、まるでファゴット奏者などこの世にいなかったかのような階のところが、どうしても強く意識されてしまって、耳に残る。

主のいなくなってしまった部屋の戸棚に仕掛けてあった秘密箱の中に、株券や肖像画とともにひっそりと匿われていた手紙の、その情熱と誠実さと優しさを感じて。

＊注：我が国固有の宗教である神道に於ける、建物の修祓式のようなもの。また仏教では大佛開眼に相当するものと思われる。　（Fg. 稲田　祥）

アルバン・ベルク

歌劇「ヴォツェック」より３つの断章

作曲年代：1923年
初　　演：1924年６月11日
楽器編成：フルート４（３、４番ピッコロ持替）、オーボエ４（４番イングリッシュホルン持替）、クラリネット４（３、４番 Es クラリネット持替）、バスクラリネット、ファゴット３、コントラファゴット、ホルン４、トランペット４、トロンボーン４、テューバ、ティンパニ（奏者２人）、シンバル、大太鼓、ルーテ（ムチ）、小太鼓（複数）、タムタム（大・小）、トライアングル、シロフォン、チェレスタ、ハープ、弦５部

アルバン・ベルクは、ハプスブルク王朝末期に栄えた裕福な商家の三男として1885年、ウィーンに生まれた。芸術、文化をとても大切にする家庭にあって、彼は独学で歌曲などを作曲していたが、シェーンベルクにその才能を認められて弟子となった。のちに師および同門のウェーベルンとともに十二音技法を確立し、20世紀の音楽の発展に大きく寄与することになる。

オペラ“ヴォツェック”は、ゲオルク・ビューヒナー（1813～1837、ドイツ）による、実際の殺人事件に基づく未完の戯曲“ヴォイツェク”（初期の編者がヴォツェックと誤読し、出版された）を基にベ

ルク自身が再編し、作曲したもので、20世紀のオペラの最高傑作とされる。

〔簡単なあらすじ〕

ヴォツェックは貧乏で無学な一兵卒で、内縁の妻マリーと子供だけを生きる縁としている。彼が仕える上官、大尉は、権威をふりかざしながら、それでいて小心者という俗物の見本のような人物で、事あるごとに彼をからかい、さげすむ。生活のために医学の実験のモルモット役になっている彼に、医者は科学の名のもとに非人間的な処置を施し、心身ともに異常が嵩じてゆくのを見て、「研究の成果」と自己陶酔に浸る。男前で羽振りの良い鼓手長は、マリ

歌詞対訳

（全曲版の中から、次の部分のみが歌われる）

Ⅰ.（第1幕　第2および3場）

Soldaten, Soldaten sind schöne Burschen!
兵隊さん、兵隊さんは良い男！

Komm, mein Bub! Was die Leute wollen!
おいで、坊や！　勝手に言わしておくがいいさ！
Bist nur ein arm' Hurenkind
坊やは可哀そうな父なし子
und machst Deiner Mutter doch so viel Freud' mit Deinem unehrlichen Gesicht!
だけど母ちゃんは嬉しいよ、その罪深い顔が！
Eia popeia.....
ねんねんころり……
Mädel, was fangst Du jetzt an?
Hast ein klein Kind und kein Mann!
娘さん、どうするつもり？
父なし子をこしらえて！
Ei, was frag' ich darnach,
いえ、かまやせぬ、
Sing' ich die ganze Nacht;
夜どおし子守歌——
Eia popeia, mein süßer Bu',
Gib mir kein Mensch nix dazu!
ねんねんころり、可愛い坊や、
放っておいて下さいな！

Hansel, spann' Deine sechs Schimmel an,
Gib sie zu fressen auf's neu–
さあ坊や、白いお馬に、
もいちど餌をおやり！
Kein Haber fresse sie,
Kein Wasser saufe sie,
燕麦じゃだめ、
ただの水もだめ、
Lauter kühle Wein muß es sein!
冷えたお酒をおやりなさい！
Lauter Kühle Wein muß es sein!
冷えたお酒をおやりなさい

Ⅱ. 第3幕　第1場

"Und ist kein Betrug in seinem Munde erfunden worden..."
"しかしして、その口に虚偽なかりき…"
Herr Gott, Herr Gott! Sieh mich nicht an!
神さま、神さま、あたしを責めないで！
"Aber die Pharisäer brachten ein Weib zu ihm, so im Ehebruch lebte,
"ここにパリサイ人ら、姦淫のとき捕えられたる女を、つれてきたり、
Jesus aber sprach : So verdamme ich dich auch nicht, geh'hin, und sündige hinfort nicht mehr."
イエス言いたもう——往け、ふたたび罪を犯すな！
Herr Gott!
神さま！
Der Bub gibt mir einen Stich ins Herz, Fort!
坊やを見ると、胸を突きさされるわ。いやっ！
Das brüst' sich in der Sonne!
えらそうな顔をして！
Nein, komm, komm her! Komm zu mir!
いいえ、おいで、こっちへ！　さあ、おいで！
"Es war einmal ein armes Kind und hatt' keinen Vater und keine Mutter–
war Alles tot, und war Niemand auf der Welt,
und es hat gehungert und geweint – Tag und Nacht.
"昔、かわいそうな子供がいて、父さんもなし母さんもいなかった……みんな死んで、この世に、だれもいなかったの。おなかがへって、その子は泣いたわ——夜も昼も。
Und weil es Niemand mehr hatt' auf der Welt....."
でも、この世にだれもいなかったので…"
Der Franz ist nit kommen, gestern nit, heut' nit.....
フランツは来ない、きのうも、今日も……
Wie steht es geschrieben von der Magdalena?
なんと書いてあるのかしら、マグダラのマリアのことは？
'Und kniete hin zu seinen Füßen und weinte und küßte seine Füße und netzte sie mit Tränen und salbte sie mit Salben...'
'み足近くひざまづき、泣きつつ、み足に接吻して、涙にてうるおし、香油を塗れり……'
Heiland! ich möchte Dir die Füße salben...
Heiland, Du hast Dich ihrer erbarmt, erbarme Dich auch meiner!...
主よ！　あたしにも香油を塗らせて…
主よ、あの女を憐れむなら、あたしのことも憐れんで！

注）" "の部分はシュプレッヒシュティンメ（リズムは規定されるが音程は暗示的に扱う語り調の歌）、' 'はさらに普通の歌唱との中間で歌う

Ⅲ. 第3幕　第4および5場

ここには歌はなし。

ーを強引に口説き落とす。唯一の心の支えの裏切りに絶望感に襲われ、嫉妬に狂った彼は、マリーを刺し殺し、自らも錯乱のうちに水死する。

ベルクは1914年、この戯曲のウィーン初演を見て直ちにオペラ化を決め、途中で兵役による中断をはさみ、1922年に書き上げた。完成前から音楽的には注目されたが、興行的には、暗い内容、高度な音楽、その他さまざまな障害により、なかなか上演には至らなかった。そのため、ベルク自身もマーラー未亡人の経済的援助を得て、ピアノスコアを自費出版する（この曲はアルマ・マーラーに献呈された）などして奔走するうち、このオペラに関心を寄せていた指揮者ヘルマン・シェルヒェン（今回の指揮者トラヴィス氏の師に当る）が演奏会用の抜粋版を作ることを提案し、ベルクは直ちにこれに応じた。こうしてできたのがこの“３つの断章”で、1924年、シェルヒェンの指揮によりフランクフルトで初演され、好評を得た。オペラ全曲については幾多の困難を乗りこえ、1925年ベルリンでエーリッヒ・クライバー（カルロスの父）の指揮により初演された。

「３つの断章」とはオペラ全曲の中から次の部分を抜粋したものである。
Ⅰ．マリーが窓の外を通る軍楽隊の鼓手長に見とれているのを隣りの女房にからかわれ、腹を立てて窓を閉め、子守唄で子供を寝かしつける。
Ⅱ．（ヴォツェックに浮気を咎められ反発はしたものの）マリーは自責の念にかられる。聖書を読み、マグダラのマリアに我身をなぞり、神の許しを乞う。
Ⅲ．（マリーは殺され、そして）ヴォツェックの死。それまでの出来事が走馬灯のように回想されながら悲劇の頂点を形づくる。そして後には無邪気に遊ぶ子供が１人とり残される。

ベルクは、なぜこの３つの場面を選んだか。無調を基本とするこの斬新な音楽が敬遠されたため、特に聞き易い部分をとり出したとも言えよう。たしかに全曲の中で２個所だけの調性のある部分をいずれも含んでいる。さらに共通項として、子供が登場し、母親マリーが描かれているのは、この３場面を含む４個所だけであることに私は注目したい。救いようのないほど暗い話でありながら、多くの感動を呼ぶこのオペラの底には、ベルクの持つ「感情のあふれるような暖かさ」（シェーンベルクの回想より）が終始流れている。ベルクはマリー母子を通し、このような悲劇を決して繰り返してはならないこと、そして子供こそ一条の光明であることを強調したかったのではあるまいか。マグダラのマリア――罪を悔い改め、未来に向かって生きる決意を認められてキリストに許され、復活したキリストが最初に声をかけたもと極悪非道の女――の引用が、とても大切なものとして浮かび上がる。

真の人間性に基づき、精魂込めてこのような傑作を作り上げたベルクこそ、新しい時代の芸術家として、ふさわしい姿であると言うことができよう。

（Perc. 上原　誠）

フランツ・シューベルト

交響曲第9(8)番
ハ長調

作曲年代：1828年
初　　演：1839年３月21日・ライプツィヒ・ゲヴァントハウス
　　F. メンデルスゾーン指揮
楽器編成：フルート２、オーボエ２、クラリネット２、ファゴット２、ホルン２、トランペット２、トロンボーン３、ティンパニ、弦５部

皆さんはシューベルトという作曲家にどんなイメージをもたれることだろう。“のばら”や“楽に寄す”、“アヴェ　マリア”等珠玉の名曲を数えきれない程残した歌曲の作曲家…。あるいは未完成交響曲やロザムンデの音楽にみられるように美しいロマンティックな旋律をふんだんに書き残した稀有のメロディーメーカー…。事実彼のすべての作品は美しく抒情的な旋律でみちあふれており、聴く者をロマンティ

ックな音の世界へといざなってくれるのである。シューベルト作品の真骨頂はこうした美しい旋律から涌き出ずる抒情性、歌謡性にあるといえるだろう。その意味で声楽曲作品が圧倒的に多いこの作曲家が俗に“歌曲の父”と呼ばれる所以である。

しかし一方で“未完成”をはじめとする管弦楽や“死と乙女”、“ます”といったピアノを含む器楽の室内楽にも忘れてはならない重要な作品がキラ星の如くならんでいる。しかもそれらの作品すべてに共通していえることはすばらしいこころの“うた”があるということである。シューベルトの音楽からはベートーヴェンの音楽の持つ怒濤の如き意志の力や構築性、万人に向けられたメッセージ性といったものを感じ取ることはできない。むしろ極めて個人的な感情の繊細な動きや心の襞の陰影といったものを音に託したいわば音楽の私小説といった趣きを感じるのである。チャーミングで優しさと悲しさとがまじりあった響きが作品を支配している。それというのもシューベルト自身の中にある“こころのうた”こそが彼の作品の命であり、みなもとであるからに他ならない。

シューベルトは生涯で10曲の交響曲を作曲したが、9番目に書いたものは草稿が粉失してしまったので本日演奏されるハ長調の“ザ・グレート”と呼ばれるものが実質的に9番目の最後の交響曲となっている。第8番の“未完成があまりにも有名であるが、曲の完成度からいえば“未完成”をしのぐものがありシューベルトの生涯最後を飾るのにふさわしく全作品中最大かつ最高の傑作といっても過言ではない。生前彼はこの曲を自身の耳で聞くことはできなかったが、死後11年経った1839年ライプツィヒ・ゲヴァントハウスであの天才作曲家メンデルスゾーンによって初演され圧倒的な成功を収め、聴衆に極めて強い感銘を与えたと伝えられている。

シューマンは大作曲家であると同時に優れた批評家でもあったが、自ら創刊した「音楽新報」“Neue Zeitschrift für Musik”という雑誌の中で「この交響曲を知らない者はシューベルトを知らないと同じである。美しい“うた”以上のもの、いままでいろいろな音楽が何百回となくあらわしてきたよろこびかなしみ以上のものが内蔵されていて聴く者をすばらしい想像の世界へといざなってくれる。おかげで真のロマンティシズムに一層近づくことができた。……我々はベートーヴェン以来これ程強い印象を与える作品に出会ったことがあっただろうか。」とこの曲を絶讃している。また同じシューマンの言葉を借りるならば、この交響曲は“göttliche Länge”「天国的な長さ」であり、当時としてはベートーヴェンの「第9」を除けば破格の長大さであったといえよう。この曲においてシューベルトのロマンティシズムは余すところなく語り尽されている。明るさ、やさしさ、悲しみ、喜びといったすべての感情が織り込まれており、シューベルトが苦手とする音楽上の形式、構成といった制約をも見事に使いこなし“こころのうた”をうたい尽し、長さなど全く感じさせることのない極めて完成度の高い作品となっている。

第一楽章の冒頭のホルンの旋律は我々をドイツの深い森の魔力の中へ誘い込まずにはおかない。

第二楽章は生と死の壮絶な戦いとも聴きとることができよう。それにしてもオーボエの旋律の何と美しいこと！　思わずベートーヴェンの“エロイカ”交響曲の第二楽章を想い起こさずにはいられない。

第三楽章スケルツォ部分の絶妙さはシューベルトの作品の中でもぬきんでており音楽的緊張感を少しもゆるませることなく進行させているのは見事である。

トリオ部分はまさにシューマンの言う“天国的な長さ”の具体例であり、長さのみならずここのフレーズの持つ大きさ、明るさこそが“天国的”であるといえよう。

第四楽章は華やかさと輝きを伴った一種のおまつりである。何と1150小節以上にもなろうという長大なこの楽章は少しもダレることなく極めて単純なモチーフのくり返しによって壮大なクライマックスへと向かってひたすらのぼりつめてゆく。ベートーヴェンの第7交響曲の第四楽章を想い起こさずにはいられない程すばらしい生命力にあふれた楽章となっている。

（犬山　俊道）

もっとあなたの喜ぶ顔が見たい、ヤナセです。

[自動車]
メルセデス・ベンツ
アウディ、フォルクスワーゲン
キャデラック、ビュイック
ポンテアック、シボレー
PA-NERO、AMG

[自動車関連商品]
コンチネンタル(タイヤ)
ルッド(タイヤチェーン)
アラール(エンジンオイル)
モービル(エンジンオイル)
カーアクセサリー(純正パーツ他)
ウニモグ(多目的トラック)
特種車体(レントゲン車など)
ホルムス(パワーレッカー)

[マリーン]
ハトラス(モーターヨット)
カーバー(クルーザー)
ウェルクラフト(スポーツボート)
ストラトス(バスボート)
ミロクラフト(ファミリーボート)
ジョンソン(マリンエンジン)
OMCコブラ(マリンエンジン)
マスタング(ライフジャケット)

[ファッション]
バティストーニ(プレタポルテ)
モーリス・コトレア(毛皮)
フレッド(バッグ・サングラス)
モラビト(バッグ)
イートン(ジュエリー)
デラン(ジュエリー)

[サービス]
オリジェ(カタログショッピング)
レスカル(ベーカリーショップ)
ノースアメリカンベア
(ぬいぐるみ等雑貨)
スポーツキャップ
プーリン(ゴルフクラブグリップ)

[産業用機器／資材／設備]
ピステンブーリー(大型雪上車)
スノースロワー(除雪機)
ブリグス&ストラトン(汎用エンジン)
ガンソー(自動床洗浄機)
ラケット&スカッシュコート(コート施工)
デックス・オ・テックス(床材)
コーラー(水まわり製品)
グリーンハウス(多連棟型ガラス温室)

[ヤナセグループ]
ウエスタン自動車株式会社
株式会社ヤナセクレジットサービス
株式会社ヤナセインシュアランスサービス
株式会社ヤナセ設備工業
株式会社セブンティ
株式会社テイ・シー・ジェー
アルファレコード株式会社
株式会社ハイグレード農園
エーエムジー・ジャパン株式会社
株式会社 梁 栄
ヤナセ高分子産業株式会社
株式会社モトス・リゾート
YANASE OF AMERICA INC.



Wellcraft (Made in U.S.A.)
【名称】ウェルクラフト33スポーツブリッジ
【全長】10.16m【全幅】3.86m
【エンジン】カミンズ300HP×2【定員】12名
【免許】小型船舶1級
【航行区域】限定沿海

もっと知ってほしいヤナセは、こんなにたくさんあります。

クルーザーやモーターボートもヤナセの商品です。1964年から、ずっとマリンレジャーをリードしてきました。
という事実をご存知でしょうか。76年前に自動車を輸入して以来、ヤナセの扱い商品は、
100以上になりました。その中でいつも大切にしてきたのは、新しい価値を見極める目。
もっといいものをお届けして、次々に喜びを増やしたい、ヤナセです。

いいものだけを世界から

good new days
人間らしい美しい未来を
ヤナセ
株式会社ヤナセ
東京都港区芝浦一丁目6番38号 〒105
電話(03)3452-4311(大代表)

アマチュアオーケストラ

新響が団員を募集しています

新交響楽団は創立約30年、いろいろな人たちによって自主運営されているアマチュアオーケストラです。ヒラから社長までにわたるサラリーマン、学校の先生、学生、独身貴族もいれば主婦もお父さんもいます。

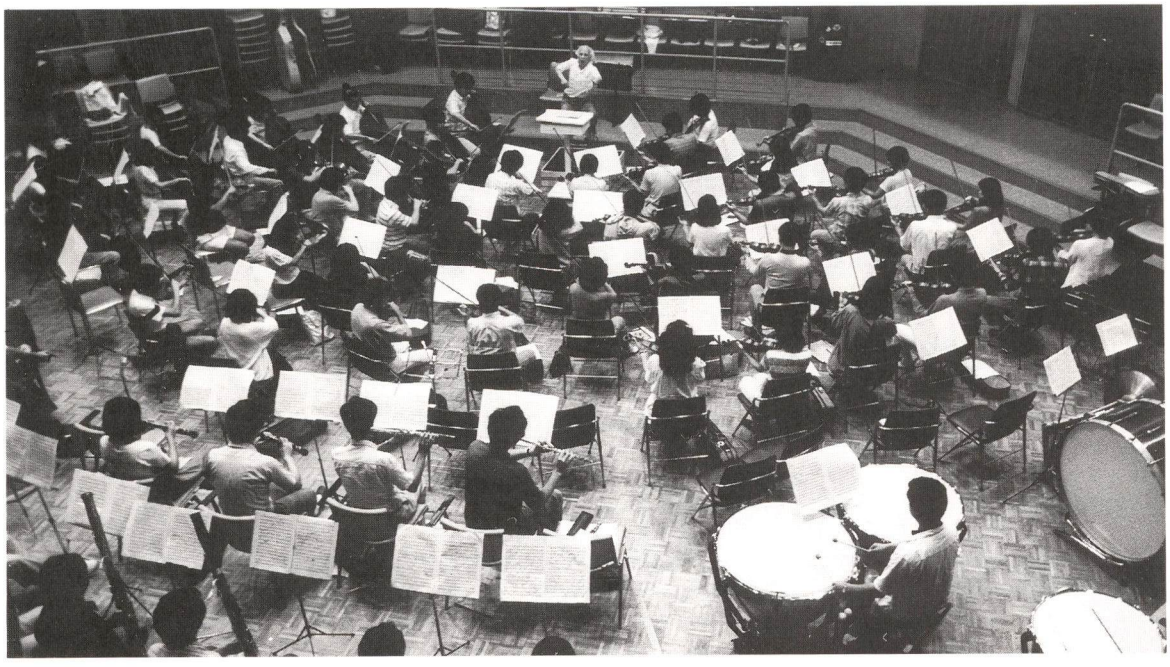
新響の宣伝をさせてください。まず、「アマチュアのオーケストラ」を前面に出していること。プロの亜流みたいな演奏はしたくないのです。プロは生活がかかっていますが、私たちは音楽を楽しむためにお金を払います。だからこそ、払う価値のある活動をしたいと思っています。具体的に言えば、あまり知られていない優れた曲を紹介したり、プロよりはるかに多く愚直ともいえる練習を重ねることによって曲に深く接近することなど、いろいろな試みを企画することです。

新響が最近行った主な演奏会には次のようなものがあります。

・日本の交響作品展（邦人による隠れた名曲を発掘。約10年がかりで多くの作曲家の作品を演奏。指揮＝芥川也寸志。このシリーズはサントリー音楽賞を受賞しました）
・中国作品展（作曲家・独奏者を中国より招聘）
・マーラー・チクルス（交響曲全曲を演奏。指揮＝山田一雄）
・ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演（指揮＝芥川也寸志）
・ヒロシマ・レクイエム（細川俊夫氏に新曲を委嘱、初演。指揮＝今村能）

今後も積極的にアマチュアオーケストラとしての可能性を探っていきたいと考えています。そのためにあなたの力が必要です。文章が長くなりました。何よりもまず一度、練習をご覧ください。いつでも歓迎です。

練習――――毎週土曜6～9時、東京文化会館中リハーサル室他。なお練習時の託児制度があります。
募集パート――弦楽器（特にチェロ）、木管・金管・打楽器。
お問合わせ先――市川☎0425(62)4595




愛する心で、応答願います。
今くちずさんでいるその歌を、大切にしたいから。
歌をくちずさむ気持ち、音楽を愛する心を大事にしてください。
JASRACは、著作権の管理を通して世界の音楽を守っていきます。
あなたは、音楽を愛する心で少し、
詞や曲をつくった人たちのことを考えてみてください。
JASRAC
日本音楽著作権協会
理事長　石本美由起
〒105 東京都港区西新橋1-7-13　☎(03)3502-6651